

## 茶室「八窓庵」と 奈良国立博物館

吉澤 悟(当館学芸部教育室長)

奈良国立博物館の南側、日本庭園の片隅に、草庵式の茶室がひっそりと建っています。名前は「八窓庵」。茶席に開いた窓が八つあることからその名があります。

八窓庵は、もとは興福寺の大乗院内にあったものです(現在の奈良ホテル南側の池畔付近)。東大寺四聖坊(今の正倉院付近)にあった茶室「隠岐録」(東京の井上邸に移築、戦災で焼失)、興福寺慈眼院の六窓庵(東京国立博物館に移築)と共に「大和三茶室」と称された、名高い茶室です。明治年間に大乗院が廃寺となり、一度は個人の所有に帰したものを、篤志家七名の努力によって明治二十三年(一九一〇)に博物館への寄贈が提起されました。博物館の敷地内に移築されたのは、同二十五年のことです。



一方、奈良国立博物館の方は、明治二十二年に「帝國奈良博物館」の設置が公布され、内匠寮技師片山東熊により本館現在の「なら仏像館」が設計されました。東熊は、後に赤坂離宮の設計も手がけた洋風建築の大家です。明治二十五年に起工式、同二十八年の夏になってようやく博物館として開館しました。八窓庵の移築は、博物館開館にさきがけること三年、本館建

設とほぼ同時期に行われていたのです。百年前の移築の時点で既に百五十歳を越える古茶室でしたので、博物館の敷地に初めて建ったのが最古の建築ということになります。

ところで、博物館の誕生前から茶室が存在するとは、やや不可解な現象にも見えます。その背景には、名茶室を永世に残したいと願う篤志家たちの想いと、帝國博物館への期待感があったのは間違いないでしょう。特に八窓庵の歴史には、「博物館には茶室が付き物」という認識が生まれる過程に深い縁があるので。

慶応三年(一八六七)、パリの万国博覧会では江戸幕府や薩摩藩の名産品が紹介されました。博物館のさきがけです。その会場には日本庭園の付いた茶席が設けられ、芸妓が湯茶をサービスしたそうです。後に日本の博物館創設に活躍する町田久成は、会場視察団の一員として、パリっ子に評判だったこの茶席の様子を観察しています。また、明治五年(一八七二)の京都博覧会でも、町田は茶席が外国人をはじめとする観覧客に好評を博する様子を見えています。名品鑑賞と茶席。日本文化の紹介にこれほど良い組み合わせはないと思つたことでしょう。私的なレベルであれ、日本で初めての博物館構想に、ティー・セレモニーが影響を与えていることは面白いことです。明治十五年、町田は東京帝國博物館の初代館長となり、その際に、慈眼院の六窓庵を東京に移築します。これに呼応するかのようになり、数年後、八窓庵は奈良の博物館に移ることになりました。以後、古寺や名家に伝わる茶室が、博物館にも移築、保管される流れが生まれて行きます。

八窓庵は、古田織部好みの江戸中期を代表する茶室、という文化的価値のみならず、近代博物館の歩みとも切り離せない歴史遺産でもあるのです。

### ● 公開講座 ●

#### 「第62回 正倉院展」

- 10月23日(土)「獅子面の模造をめぐって」  
山片唯華子氏(宮内庁正倉院事務所保存課調査室員)
- 10月30日(土)「正倉院の紙」  
湯山賢一(奈良国立博物館館長)
- 11月 6日(土)「五絃琵琶と紫檀工芸」  
関根俊一氏(帝塚山大学教授)

#### 特別陳列 「おん祭と春日信仰の美術」

- 12月11日(土)「若宮おん祭と大和の猿楽—猿楽の座の年初め—」  
宮本圭造氏(法政大学准教授)

時間：各回とも 午後1時30分～3時(午後1時開場)  
会場：当館 講堂  
定員：196名(先着順。午後1時より、講堂入口で入場券を配布します)  
料金：無料  
\*入場の際には、展覧会の観覧券もしくはその半券をご提示ください。

#### ◆キャンパスメンバーズ

当館は、大学等と連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する「キャンパスメンバーズ」の制度を設けております。

会員大学等の学生および引率教職員は名品展については無料、特別展については400円で観覧できます(共催展の場合は別途定めるものとします)。学生証(引率教職員は身分証明書)の提示をお願いいたします。(会員大学等)大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、大阪樟蔭女子大学、大阪樟蔭女子大学短期大学部、樟蔭高等学校、樟蔭中学校、京都外国語大学、京都外国語短期大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都伝統工芸大学校、京都ノートルダム女子大学、京都文教大学、京都文教短期大学、近畿大学芸芸学部、近畿大学大学院芸芸学研究科、実践女子大学、実践女子短期大学、就実大学人文学部、帝塚山大学、帝塚山高校、天理大学、同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良佐保短期大学、奈良産業大学、奈良文化女子短期大学、奈良文化高等学校、奈良学園高等学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛光大学、龍谷大学、龍谷大学短期大学部(五十音順)(2010年9月30日現在)

### ● サンデートーク ●

サンデートークは毎月1回、日曜日の午後1時に当館研究員や専門家が皆さまのためにお話をいたします。美術や歴史、展覧会や博物館の活動など、日ごろ聞くことのできない「通」な話を、肩肘張らずに聞くことが出来ます。

今年度は当館研究員の一人一人が「今だから聞いて欲しい話」を持ち寄り、熱く語ることにしました。どうぞお気軽にご参加下さい。聴講は無料。展覧会観覧券等の提示は必要ありません。事情により、講師や話題内容の変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

- 10月17日(日) 「天馬Part2—正倉院宝物に描かれた天馬」  
吉澤 悟(当館学芸部教育室長)
- 11月21日(日) 「装飾文様の話」  
永井洋之(当館学芸部研究員)
- 12月19日(日) 「春日曼茶羅と春日若宮の文殊信仰」  
谷口耕生(当館学芸部保存修理指導室長)
- (平成23年)
- 1月16日(日) 「阿育王塔の本生図」  
稲本泰生(当館学芸部企画室長)
- 2月20日(日) 「蓬萊の玉の枝—作り物閑話」  
清水 健(当館学芸部研究員)
- 3月20日(日) 「奈良の仏像(仮)」  
鈴木喜博(当館学芸部上席研究員)

\*各回とも午後2時～3時30分(開場は午後1時30分)。当館講堂にて。定員196名(先着順)。聴講無料

#### ◆奈良国立博物館賛助会

2010年9月30日現在、一般会員(個人)31名、一般会員(団体)17団体、特別会員2団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。新しく加入された方をご紹介します。

- 【一般会員(個人)】富山哲榮様(平成22年8月ご入会)  
増子 正様(平成22年9月ご入会)
- 【一般会員(団体)】大日本印刷株式会社様(平成22年9月ご入会)